

平成24年度釜石市立釜石中学校 釜石市授業交流会 社会科 指導案

【自己課題】 ①基礎・基本を定着させる授業づくり ②問題解決型学習の充実			
1.実施日	11月9日(金)	2.授業者・学級	武田 啓佑 3年3組 男18名、女13名 計31名
3.教科名	社会科	4.単元名	第3章 わたしたちの暮らしと民主政治 第2節 司法権の独立と裁判
5.単元の目標	<p>○国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法にもとづく公正な裁判の保障があることについて資料などを多面的・多角的に検討し、理解する。</p> <p>○個人の人権を保障するために三権分立の原則があることや、三権が均衡を保ち、それぞれの役割を果たしていくことの重要性に気づく。</p>		
6.単元の評価規準	<p>【社会的事象への関心・意欲・態度】 法に基づく公正な裁判によって国民の権利が守られ、社会の秩序が維持されていることに関心をもち、司法権の独立と法による裁判が憲法で保障されていることについて、理解を深めようとしている。</p> <p>【社会的な思考・判断・表現】 裁判についての資料などを読み、国民の司法参加として取り入れられた、裁判員制度の意義や民主的な政治や裁判に関わる課題について、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察したりした過程や結果を自分の言葉で表現している。</p> <p>【資料活用の技能】 憲法で保障された、司法権の独立と法にもとづく公正な裁判に関する資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用できる。</p> <p>【社会的な事象についての知識・理解】 法に基づく公正な裁判によって国民の権利が守られ、社会の秩序が維持されていることを理解し、その知識を身に付けている。また、国会・内閣・裁判所のそれぞれの地位やはたらき、相互の関係性を理解し、民主政治が実現していくために、三つの権利が均衡を保ちながら果たしている役割を理解し、知識として身に付けている。</p>		
7.単元(章)の指導計画	<p>① 権利と秩序を守るために 1時間</p> <p>② 犯罪を裁く 1時間</p> <p>③ 公正な裁判とは 1時間</p> <p>④ わたしたちの司法参加 1時間(本時)</p> <p>⑤ 互いに監視し合う三つの権力 1時間</p>		
8.本時の指導目標	【社会的な思考・判断・表現】 ☆裁判員制度について、さまざまな資料から適切に情報を収集し、裁判員制度の意義を考え、自分の言葉でまとめて表現することができる。		
9.本時と【自己課題】との関わり	<p>①基礎・基本を定着させるため、前時までの学習内容を踏まえて根拠を持った思考・表現などをさせる。</p> <p>②課題についての自分の考えを持たせ、他者との議論のなかで、事象を多面的・多角的に考察し、他者に自分の考えを適切に表現する力を育てる。</p>		

10.本時の展開

段階	学習内容	学習活動	○指導上の留意点 ☆評価の観点
導入 10分	1. 前時の確認 2. 学習課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・裁判のしくみについて振り返る。 ・裁判員裁判についての動画から、国民が裁判に参加することになったことをとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習事項を確認させる。 ○有権者になれば、生徒自身も裁判員に選ばれることをとらえさせる。
		なぜ、私たちが裁判員として裁判に参加するのだろうか。	
展開 33分	3. 予想する 4. 課題追究① 5. 課題追究②	<ul style="list-style-type: none"> ・参加する意義について自分の考えを発表する。 「多様な意見を取り入れるため」 「国民の視点から裁判を行うため」 「裁判官に問題があったため」など ・裁判員制度のしくみや課題点を理解する。 プリントを用いて、しくみをまとめる。 ・資料から裁判員制度の意義を読み取る。 ①裁判員制度に関するパンフレット(法務省等) <ul style="list-style-type: none"> ・裁判員制度がスタートした理由 ②裁判員制度に関するマンガ(日本弁護士連合会) <ul style="list-style-type: none"> ・冤罪防止の観点 ③最高裁判所発行の資料 <ul style="list-style-type: none"> ・裁判員経験者の声 など ・読み取ったことを発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習事項を踏まえ、予想させる。 ○解決の見通しを持たせる。 ○教科書や資料集などから読み取らせる。 ○制度の課題点にも触れる。 ○裁判員制度について、さまざまな資料をもとにし、適切に情報を活用し、内容をまとめさせる。 ○国や弁護士など、様々な立場の見解を読み取らせる。
まとめ 7分	6. 本時のまとめ 7. 次時の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の意見や検討した資料の読み取りを踏まえ、課題に対するまとめを自分なりのことばでノートに書く。 「私たちが裁判員制度に参加するのは、国民の視点や感覚を反映させるためである。もし選ばれたら、私も積極的に参加したい。」 ・まとめたことを発表する。 ・次時の予告をする。 司法権の独立と三権分立について取り上げることを説明する。 ・家庭学習で取り組む内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆裁判員制度の意義について、資料から読み取ったことや他者の意見をもとに、自分なりにまとめることができる。(ノート) <p>【社会的な思考・判断・表現】</p>